

チ　ェ　ッ　ク　リ　ス　ト

様式 2

I 基本的なことから

チ　ェ　ッ　ク　項　目	工　夫　し　た　こ　と　が　ら
I－1 みどり豊かでゆとりある良好な住環境	周辺には住宅がなく、事務所や販売店、スーパーなどが立ち並んでいる地域である。 極力道路面に植栽帯を設けることで、道路から緑を感じられるよう配慮した。 すっきりとした印象を与える外観とし、景観にも配慮したデザインとした。 また、室外機等の設備機器は極力道路から見えないように配置を検討した。
I－2 多世代が定住でき、永く住み続けられ心の豊かさにもつながる、まちづくり	
I－3 ユニバーサルデザイン等の導入	
I－4 安心・安全の生活の確保	
I－5 都市の熱環境への負荷の低減	
I－6 地形を活かし、遠景や近景を眺めメリハリのあるまちづくり	
I－7 魅力ある場所をつくるデザイン	
I－8 美しく開放された空間づくり	
I－9 地区計画や建築協定などの積極的活用	

チ ャ ッ ク リ ス ト

様式 3

Ⅱ 技術的なことがら (計画の作り方と数値目標)

チ ャ ッ ク 項 目	工 夫 し た こ と が ら
Ⅱ―1 地形を活かし、魅力ある住宅地景観をつくることやまちなみの連続性への配慮	擁壁H＝ m・L＝ m 法面H＝ m・L＝ m ²
Ⅱ―2 高さ、容積率、建ぺい率について	最高高さ 8.900m・容積率 85.45% 建ぺい率 42.73% 隣棟との間隔 1.673m
Ⅱ―3 近隣の建物の配置状況への配慮	北側及び西側の所有は同じ事業者である。 従前建物と同程度の配置計画とし、大きく配置を変えない計画とした。
Ⅱ―4 周辺から見た都市景観への配慮	圧迫感の無いよう道路から控えた配置計画としている。
Ⅱ―5 オープンスペースや緑化スペースと歩行者動線	歩車分離を明確にし、歩行者の動線上には緑地スペースを設けた。
Ⅱ―6 建物の外壁面の後退の指標	外壁面後退 道路から 5.621m・隣地から 1.521m
Ⅱ―7 有効空地の指標	歩道設置(無) W＝ m・L＝ m 敷地内空地 %
Ⅱ―8 敷地面積の規模の指標等	建物を正方形に近いきれいな形状とし、道路から控えた配置としている。
Ⅱ―9 防犯性の高い良質な住宅ストック	
Ⅱ―10 景観デザイン	道路面の窓を均等に配置し、すっきりとした外観とした。設備機器は道路から極力見えない配置とした。
Ⅱ―11 まちの庭園化	時期によっては花が咲くような樹種を植える予定の植栽帯を設けた。
Ⅱ―12 工作物などの作り方	フェンスH＝ 1.2m 道路面にはフェンスを設置しないような計画とした。

*このチェックリストに書ききれない場合は、別紙に記入し添付してください